

シリーズ掲載

言語活動の充実に向けたはじめの一歩



「学びかけのある魅力的な学習課題づくり」Vol. 7

～国土学習における導入のヒント～

《小学校5年「わたしたちの国土」～国土の地形の特色～》

地図を眺めているだけで、その土地を旅したような気持ちになるなど、地図を見るのはなかなか楽しいものです。

5年生は、日本の国土についての学習で本格的に地図を活用します。そこで、今回は、国土や地形に関する見方を育てる楽しい導入を工夫して、地図への興味・関心を高める実践例を紹介します。



5年生の教科書（『新編新しい社会5年上』東京書籍）に、
国土の地形について記した次の文があります。

国土は、まわりを日本海や太平洋などの海に囲まれている島国です。

「日本は島国である」と言われますが、子どもたちの多くは、北海道や本州、四国、九州については、「島」という見方をしていません。そこで、次のことを問います。

『日本で一番大きな島は何でしょう？』

子どもたちは、地図帳を開いてさっそく調べ始めます。

淡路島？

佐渡島！

どれも違うの？！
一体何だろう…

残念！！違
います。もっ
と
大き
い島が
あるぞ！

分かった、
本州だ！！

子どもたちが大いに迷ったところで、教科書を開かせて、「国土の地形の特色」のページを読ませます。そこには、冒頭で紹介した文に続いて次の記述があります。

「北海道、本州、四国、九州の四つの大きな島と、
そのほかの多くの島々が南北に連なっています

子どもたちの多くは、本州なども島であることを改めて知り、驚きます。

つまり、島というものの定義がしっかりと分かっていないと、この問い合わせの答えが分からぬいのです。答えが分かったところで、子どもたちに島の定義を教えます。
島の定義は、次の通りです。

島(しま)とは、水域に四方を囲まれた陸の中で面積の規模の小さいものをいう。
ただし、自然に形成された陸地であること、満潮時に水没しないことが条件である。

日本の地理を対象としている場合、北海道、本州、四国、九州の4島は、島と呼ばない場合もあります。しかし、上記の定義からいえば、これら4島を含めて、日本の領土は全て島から成っているといえます。ちなみに、日本には、島が何と6852あります。(周囲が0.1km以上もの)

島の定義が分かった子どもたちに、次のことを問います。

『世界で一番大きな島は何でしょう?』

答えは「グリーンランド」です。

ここで、「島」と「大陸」の違いについて考えさせ、大陸の定義を教えるとよいでしょう。子どもたちは、改めて、「日本は島国である」ことを認識するでしょう。



その他、半島や岬についても学習します。

半島(はんとう)とは、陸地の海や湖へ細長く突き出している部分をいう。

※ 非常に小さいものは、岬と呼ぶ。

半島の定義を教えた後で、「世界で一番大きい半島は何でしょうか?」と問い合わせ、同じように、地図帳で調べさせます。このあたりになると、子どもたちは、夢中で地図を見るようになるでしょう。



★まとめ★

教科書や地図帳には、「山地」(山脈・高地・高原・丘陵) や「平地」(平野・盆地・台地) の地形に関する説明は記載されていますが、「島」や「大陸」の定義については記載がありません。

そこで、島や大陸の定義を教え、その違いを知ることによって、「島国である」という日本の国土の特色をしっかりと捉えることにつながります。